

するだけです。そうでなくて、追手門の特色は何か。それで人を集めないといけない。

提携についても、様々な形態で検討しています。まさにニッチ(間隙・すきま産業の意)です。ニッチ需要のあるところを狙っていく、という形です。

そして大学内部としても、教育内容は、まさにニッチであって、大学の特色は何であるかを定めていかないと、我々のような中規模のところは生き残れないのです。

【大木理事長】

学院の特色を出すには、キャリア教育が大事です。関関同立と言っているけれど、親が言うから、塾に通い、知らない間に関関同立卒業しても、世の中で何の役にも立たない、では意味がありません。

だから、わが方は、入学した学生を、今までの大学みたいに水くさい付き合いをしないで、高校の延長のように、教授が、温かく学生を抱えて、「キミはどんなことをしたいのか」と相談に乗ってやりたい。結果的に、追手門学院に入って良かった、と言わさないといけないのです。それを10年か20年続けていたら、この大学はもっと良くなると思う。

追手門を出て良かった、と言えるような教育

【川原会長】

いままでの関関同立、たしかに偏差値レベルでいけば、追手門より上だ。

しかし、関関同立の学生、果たして、人格的に人間的にどこまで追大生を上回っているか、は別の話です。一流大学出たから、社会で成功するか、という話は、全く別なのです。

理事長の話のように、追手門を出て良かったと言えるような教育、全人格的教育をすべきでしょう。



【大木理事長】

それがリベラルアーツです。あまり専門家教育などといわなくとも、教養人として、英語・中国語が話せて、キャリア教育を施せば、社会人として十分通用する人材が育成できるのです。

もともと偏差値なんて、人格評価において、大した問題ではありません。

【平野会長】

もう少しゼミの先生が、面倒見を良くする。以前は、相談に行けば、何でも話に乗ってくれた。昔は、みんなから、「追手門学院大学に行けばいいぞ。良い学校になるから。」と言われ、入学したものです。

【川原会長】

理事長のお話のように、まさに「追手門に来て良かった」と思える教育をするのだ、という観点を、学院自体が前面に打ち出すべきでしょう。

大学の差別化、あるいは、個性化を打ち出す。その意味では、関関同立に負けない学院をめざす。偏差値以外のところで、立派に勝負できる学院であって欲しいと思います。差別化・個性化という観点で、偏差値至上主義を乗り越え、全人格的教育において日本

クライアントの歴史が 我々の歴史です

中央税理士法人は、平成21年に
60周年を迎え新たな一歩を踏み出します



中央税理士法人

大阪市中央区内淡路町1-2-6 中谷ビル2F
TEL.06-6941-8637~8630 FAX.06-6941-3463
E-mail hiroaki@chuo-co.com
<http://www.chuo-co.com/>

相間 宏章

小 87期



NAKATANI CO.,LTD.

本社 〒540-0024 大阪市中央区南新町1-3-3 TEL.06-6943-1129 FAX.06-6941-2920
東京営業所 〒113-0033 東京都文京区本郷4-12-16-105 TEL.03-3815-2612 FAX.03-3815-2625

<http://www.zhonggu.co.jp>

中谷 茂

尋常小48期

中谷 善紀

小77・大中高20期

祝 追手門学院創立120周年

中谷 茂 (小 48期)
中谷 善紀 (小 77期)
中谷 太郎 (小116期)
中谷 次郎 (小118期)
廣瀬 有里子 (小 78期)
廣瀬 太一 (小104期)
廣瀬 孝 (小107期)
市川 裕紀子 (小 82期)
市川 典孝 (小108期)
市川 真衣 (小110期)
市川 聖人 (小117期)
市川 怜奈 (小121期)